

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「次世代の学びのために」

武蔵野大学中学校 3年 青木 愛実

私は、この夏休みに初めて国立科学博物館に行った。沢山の子ども達が博物館を楽しんでいた。科博と呼ばれ親しまれているこの博物館は、約五百万点のコレクションを所蔵している日本で最も歴史ある総合科学博物館だ。その科博の常設展は、高校生以下と六十五歳以上の入館料が無料だ。なぜ無料なのか、どのようにして運営しているのか疑問に思った。

科博は、国からの運営費交付金と入館料などで運営している。運営費交付金は税金だ。しかし、その交付金は年々減収傾向にある。科博は独立行政法人の中では中間目標管理法というカテゴリーに分類されており「五年ごとの中間的な目標・計画に基づいて、公共上の事務・事業を行うこと」とされている。そのため、五年目の終了時に留保している資金は利益とみなされ、国に返納する義務がある。でも、もしこの利益を返納する義務がなければ、コロナ禍で収入が激減しても運営が急に厳しくなることはなかったのではないかな。

高校生以下の入場料が無料である理由として、首相官邸のホームページには、「学校教育活動の一環として、本物の美術作品や文化財を間近で見ることの効果はもちろん、将来の美術館、博物館の支援者（観客者層）の拡大にも繋がることから、極めて有意義な取組である。」と書かれている。私が訪れた時も、展示されているものを一生懸命観察してメモをとっている学生を多く目にした。また、教科書の写真でしか見たことがなかった動物や植物の標本、岩石などを間近で見ることができた。これらが無料で見られるのは、とても有意義な税金の使われ方だと思った。

科博のミッションは「調査研究」「展示・学習支援」「標本・資料の収集・保管」の三つだ。しかし、根幹であるこの三つが光熱費・原材料費の高騰によって、資金的に大きな危機にさらされている。これからも安定的に標本・資料を収集し、多様なコレクションを適切に保管し続ける体制を維持するために、将来の活動に影響が出ることを防ぐために、二〇二三年八月にクラウドファンディング（クラファン）に挑戦した。開始後九時間で当初の目標の一億円を達成し、五週間で九億円超が集まった。四十種類以上の返礼品があり、私はトートバッグを選んだ。オリジナル図録を選んだ叔父にそれを見せてもらったが、百九十ページあり自立するほど分厚く、とても魅力的な内容でまた行きたくなった。支援金が多く集まり、当初の予定よりも豪華な作りになったそう。十一月には、文部科学省が科博などの四つの独立行政法人に施設整備費として計二十億円を支援すると発表した。科博のクラファンが話題を集めたことが影響したと言われている。

科博で実物を見て、写真や画像とは違うと感じた。沢山の学びがあった。私はこういう学びの場に税金を惜しまず使ってほしい、次世代の子ども達にも見てほしいと思った。